





「ともに楽しむ」ことが当事者と中学生の距離を縮めた

プロジェクトを通じて感じたこと

ともに楽しむなかで、ともに学びあい、
“**ともに生きる力**”を、お互いに身につけていく

当事者、中学生、コーディネーター、地域住民、
メディアなど、
場に参加するすべての人が学び合いの中で、
共生の福祉文化を創造している

地域共生社会の手触り

Dementia Friendly Community(DFC)

DFCは、認知症の本人が市民として参画し、貢献することが権利として大切にされ、推進される地域社会をいう

DFCは、**たった1人の「当事者」から始まって**
よいし、むしろ1人の「当事者」との出会いから
始められなければならないであろう

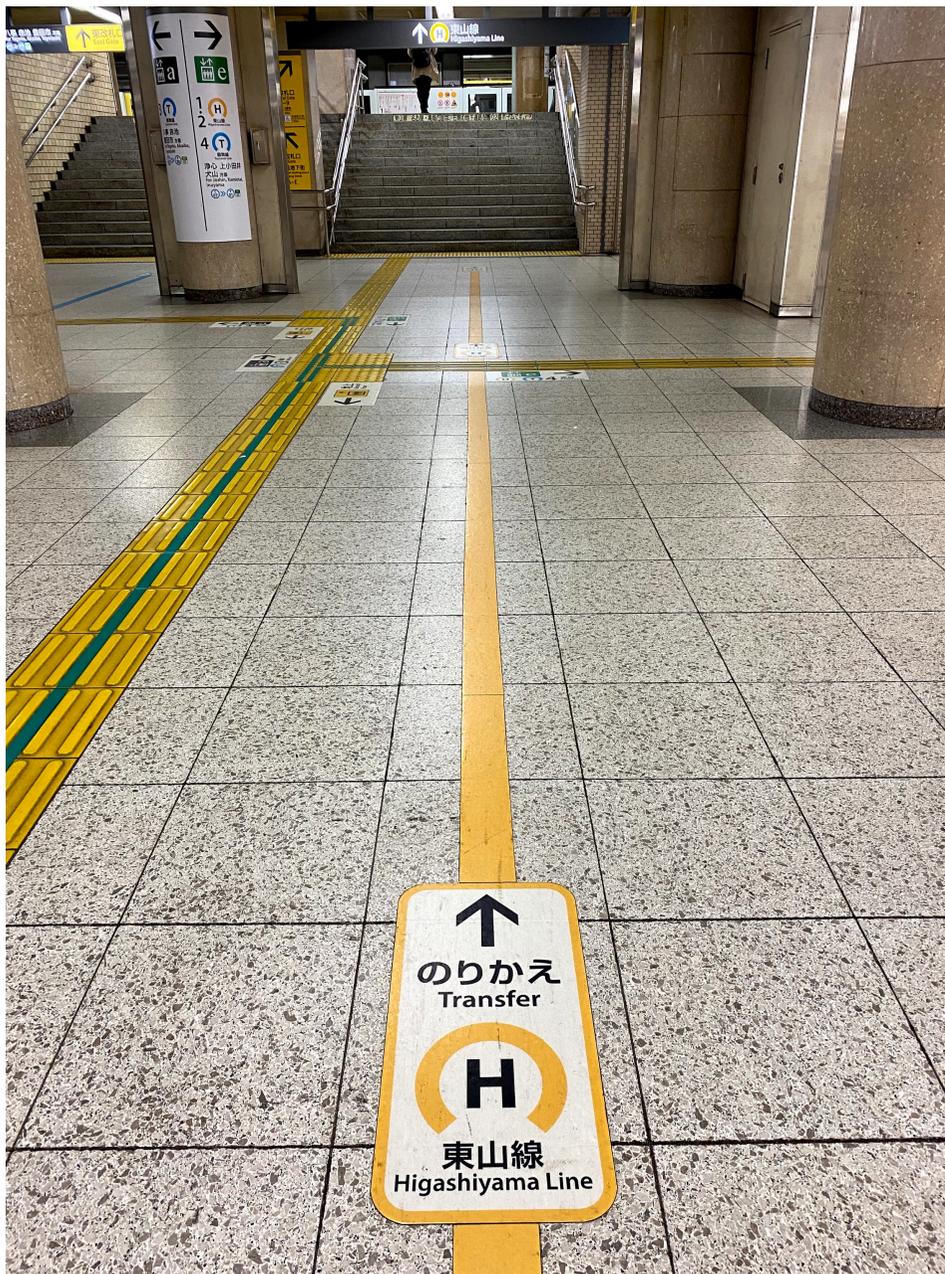


認知症フレンドリーデザインと 当事者の経験が持つ価値

誰もがともに楽しむことができるデザイン



街中でも見かけるようになった“床に矢印”



認知症の人の“経験”が社会のデザインを変えていく可能性



高齢者施設でのフレンドリーデザイン



引用：<https://info.ninchisho.net/archives/24335> (認知症ねっとの記事より)